

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
1 【いきる】	① 【かけがえのない生命】 奇跡の一本松を題材とした学習を行うことで、すべての生命はかけがえのないものであることを実感し、大切にしようとする心情を育てる。	教科（音楽） 道徳

【題材】 道徳「きせきの一本松」

【対象】 1年1組 29名

【実践の概要・詳細】

<実践の概要>

低学年は道徳や生活科を復興教育の視点で見つめ直し、学習内容をその価値項目と絡めていくことを年度初めに確認した。そこで道徳では、生命尊重、家族愛、自然愛や郷土愛に重点的に取り組むこととした。

「きせきの1本松」は、教師の説話を入れながら、特に生命尊重や郷土愛について子どもたち、保護者共に考えてもらいたいと願い、参観授業内容に設定した。

<実践の詳細>

- ・「空より高く」を歌おう 【音楽1】
- ・絵本「きせきの1本松」を読もう 【道徳1】
- ・道徳「きせきの1本松」 【道徳1】
- ・全校児童への発信（復興学習交流会発表） 【学校行事1】



奇跡の1本松「松にゃん」のとった行動と気持ちについて考える子どもたち



復興教育実践発表会で「空より高く」を歌う子どもたち

## 【授業の展開】

「きせきの1本松」のあらすじ…津波で親友を流された一本松の松にゃんが、悲しみを乗り越え健気に生き勇気と希望を与えていくお話。

## ねらい

命はかけがえのないものであることを実感し、それを大切にしようとする心情を育てる。

## ○導入

- ・前時の想起

平成23年3月11日の東日本大震災のこと、そして震災の78年前に昭和三陸大津波が岩手県沿岸をおそったことを伝える。

- ・読み聞かせ

話をより深く理解させるため、絵本「きせきの1本松」をもう1度全体に読み聞かせる。

## ○展開

- ① 厳しい冬を越え、災害から人や畑を守ろうとする主人公の気持ちについて考える。
- ② 親友が津波に流されたときに残した言葉と、生き残った主人公の気持ちについて考える。
- ③ 新しく生まれた命を見つけ、自分にできることを考える主人公の気持ちについて考える。
- ④ 最後までみんなのために頑張り死んでいった主人公の気持ちについて考える。



## ○終末

- ・被災者の実体験を聞く

被害者が書いた作文を聞くことで、実際に被災した人の気持ちを考える。

- ・歌「空より高く」を斉唱する

## 保護者の感想（一部抜粋）

・全校をあげて復興教育に取り組んでいることに感心しました。授業開始から担任の先生の子どもたちに知ってほしい、考えてほしいという熱い思いがひしひしと伝わってきました。そんな先生の思いに応じて、一人ひとり自分の考えをもち、伝える子どもたちの姿が素晴らしかったです。

・震災や復興のことについても、大人である私たちが子どもたちに気づかせたり、知らせたり、教えたりしていくことが大事であると感じました。

・震災によってたくさんの被害がありましたが、みんなに勇気や元気、力をくれた1本松に子どもたちも色々なことを教わったのではないのでしょうか。今日は本当に私たち大人もとても勉強になりました。ありがとうございました。

## 児童の感想

今日、奇跡の1本松の勉強をして、命は大切なものなんだということが分かりました。そして、私も松にゃんのような正直で勇気を与えるような人になりたいと思いました。

## まとめ ○成果 ●課題

○ 今回奇跡の1本松を題材とした学習を行ったことで、子どもたちが生命とはかけがえのないものであることを実感し、またそれを大切にしようとする気持ちを持たせることができた。

● 震災を題材とした授業を行うことで、津波以外の防災意識も高まると思われるため、定期的な防災教育が必要であると感じた。